

## 本事例の基礎データ

|                      |   |        |   |
|----------------------|---|--------|---|
| カテゴリ                 | ICT 及び先端技術を活用した指導方法                           |        |   |
| 学校種                  | 小学校   | 事例提供者  | 八王子市立横川小学校  |
| 学年                   | 特別支援学級  | 教科等    | 体育  |
| 単元名                  | より速く走るためのポイントをつかもう                            |        |   |
| 主な ICT 機器            | ・タブレット PC (キーボード付き Chrome OS 機/一人 1 台)        |        |   |
| 授業の概要                | オンラインで外部講師から走り方の指導を受け、走り方の基本的な技能を身に付けることができる。 |        |   |
| 「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け | 情報活用  | STEP 1 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事象と関係する情報を見付け、検討しようとする</li> <li>・情報活用を振り返り、自らのよさを見付けようとする。</li> </ul> |

## 本事例における教育の情報化について

|        |   |
|--------|---|
| ポイント 1 | <p><b>Google Meetを活用した専門講師の指導</b></p> <p>コロナ禍の中でリモート授業の必要性が高まり、ゲストティーチャーからの専門的な指導を、空間を超えて受けることができるのではないかと考えた。今後、様々な場面での空間を超えた学びができるのではないかと期待している。</p> |
| ポイント 2 | <p><b>3台のカメラを活用した映像の配信</b></p> <p>Google Meetの配信カメラを複数用意し、様々な角度から配信を行うことで、その場にいらないゲストティーチャーからも適切なアドバイスが受けられるようにする。</p>                                |
| ポイント 3 | <p><b>Formsを活用した振り返り</b></p> <p>特別支援学級には書字に支援が必要な児童が多い。項目を選択できる Formsは授業の振り返りに活用しやすい。振り返りを蓄積し、自己の変容に気付くこともできて効果的である。</p>                              |

## 本単元（題材）における指導の流れ

| 時間            | ●主な学習活動 ・ 児童の活動  | ○支援・留意点 ☆評価  |
|---------------|--|--|
| 1<br>～<br>2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●かけっこを楽しもう。</li> <li>・いろいろな走り方でかけっこができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○早歩き・後ろ向き・うつ伏せからのスタートなど、いろいろな走り方で 20 m程度のかけっこを行う。</li> </ul>  |
| 3<br>～<br>8   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●走るポイントを知ろう。</li> <li>・スタートの姿勢、中間疾走の走り方、ゴールをする時の顎の出し方などのポイントを知り、走る。</li> <li>●今までのポイントをおさえて走ってみよう。</li> <li>・練習してきたことを思い出しながら走る。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○50m走のコースを「スタート・中間疾走・ゴール」の三つに分け、ゾーンごとの体の使い方を知る。</li> <li>☆走る時のポイントを意識し、自分の課題なりの課題をもちながら走ることができる<br/>【知識・技能】</li> <li>☆自分の練習を振り返ることができる。<br/>【思考・判断・表現】</li> </ul> |
| 9<br>～<br>10  | <ul style="list-style-type: none"> <li>●外部講師の先生について知ろう。</li> <li>・自己紹介し、十種競技について教えてもらう。</li> <li>●外部講師から、速く走るポイントを教えてもらおう。</li> <li>・三つのポイントを教えてもらう。</li> <li>・ポイントをおさえるための練習をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○Google Meet でのやり取りになるので、児童に分かりづらい時には、適宜支援を行う。</li> <li>○各種角度から撮影・配信し、適切なアドバイスを受けられるようにする。</li> <li>☆外部講師のアドバイスを生かし、教えてもらった動きができるようになる。<br/>【知識・技能】</li> </ul>    |
| 11<br>～<br>12 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●右代先生から教えてもらったポイントをおさえて実際に走ろう。</li> <li>・タイムを計り、練習前からどれくらい速くなったのか実感する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童によっては、講師のアドバイスを生かし、実際に走る姿勢などを適切に指導し、タイムに関わらず走る楽しさを実感できるようにする。</li> </ul>   |

## 本時の流れ

| 段階                                     | ● 主な学習活動・児童の活動   | ○ 支援・留意点 ☆ 評価   |
|--|--|---|
| 導入                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本時のめあてを確認する。</li> <li>・ 外部講師の紹介</li> <li>・ 準備運動をする。</li> <li>・ 本時の学習をつかむ。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育館ステージに右代先生の映像を大<br/>写しできるようにし、いつでも子供と<br/>やり取りができるようにする。</li> </ul>  |
| <p>速く走るための練習方法を右代先生に教えてもらって、練習をしよう</p> |  |   |
| 展開                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 外部講師の指導を受けながら、技能練習を行う。</li> <li>・ 歩き方の練習を行う。</li> <li>・ スキップの練習を行う。</li> <li>・ ケンケンの練習を行う。</li> <li>・ 全力で走る。</li> <li>・ 三つのポイントをおさえて練習する。<br/>「走る姿勢」「腕ふり」「脚を上げる」</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全児童にゼッケンを着用させ、講師が<br/>名前を呼びながら指導や励ましを行え<br/>るようにする。</li> <li>○ 体育館ギャラリーや側面からも映像を<br/>配信し、外部講師が児童の動き、様<br/>子、変化を捉えやすいようにする。</li> <li>☆ 外部講師のアドバイスを生かし、教え<br/>てもらった動きができるようになる。<br/>【知識・技能】</li> </ul> |
| まとめ                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 振り返りを行う。</li> <li>・ Forms を活用して、振り返りを行<br/>う。</li> <li>・ 振り返りを発表する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 外部講師からの講評もいただき、頑張っ<br/>た児童のやる気を喚起できるようにす<br/>る。</li> <li>○ 外部講師に聞きたいことや、さらに頑<br/>張りたいことを入力する時に、必要に<br/>応じて支援を行う。</li> </ul>  |

## 授業の実際

### 【ポイント1】 Google Meetを活用した専門講師の指導



普段は受けることができない専門講師からの指導を Google Meet を活用することで受けることができた。空間を超えた学びの可能性は、今後あらゆる場面で考えられる。しかし、事前の講師との緻密な打合せや、機材のマッチング、セッティングが必要なため、計画的に進めていくことが肝要である。

### 【ポイント2】 3台のカメラを活用した映像の配信



本時は体育の実技指導であったため、遠隔地にいる講師が児童の動き、様子、変化を見取るために、3台のカメラから配信を行った。1対1の会議ではなく、Google Meet で外部講師が見たい映像を選択することができたため、児童への的確な指導を行うことができた。

### 【ポイント3】 Forms を活用した振り返り



特別支援学級には書字に支援が必要な児童が多いので、項目を選択できる Forms は授業の振り返りに活用しやすい。振り返りを蓄積し、自己の変容に気付くこともできて効果的である。児童は意欲的にその日の活動を振り返り、自己評価することができた。

## 今後に向けて

### ● ICTを活用した時間と空間を超えた学びの実現

ICTの活用により、児童は教室にいながら世界中の方々と関わり、学びを深めることができるようになった。また、授業以外では、休み時間や自宅学習でも学びを蓄積し、交流することが可能になっている。教師が一人1台の学習用端末の活用の可能性をさらに模索する必要がある。

### ● ビデオ会議ツールの効果的な活用を促進

Google Meet の活用により、いつでもオンラインによる全校朝会や児童集会などを行うことができるようになった。今回は外部講師が児童の動きを、映像を見てアドバイスをするという、オンラインを活用した活動としては難しい活動ではあったが、複数台のカメラから配信することで活動が可能となった。今後も様々な場面で機器等を工夫して活用することにより、活動の可能性がさらに広がっていくと考えられる。